

平成 28 年度第 1 回日進市総合戦略推進委員会 議事録

日 時	平成 28 年 7 月 21 日 (木) 午前 10 時から正午まで
場 所	日進市役所南庁舎 2 階第 5 会議室
出 席 者	坂井陽二、福安克彦、石黒秀一、鶴飼宏成、亀倉正彦、土田茂、齋藤謙次、高岡俊彦、山本康弘、平真弓
欠 席 者	無
事 務 局	金山敏和 (企画部長)、小林正信 (企画部調整監)、石川達也 (企画部次長兼企画政策課長)、川合陸仁 (企画政策課長補佐兼市政戦略係長)、小塚竜範 (企画政策課市政戦略係主事)
説明の為に出席した者	水野隆史 (地域福祉課長)、志水浩二 (建設経済部次長兼産業振興課長)、蟹江健二 (産業振興課主幹)
傍聴の可否	可
傍聴の有無	無
次 第	1 開会 2 委員委嘱 3 あいさつ、自己紹介 4 委員長選任、委員長職務代理指名 5 諮問 6 議題 (1) 日進市人口ビジョン及び総合戦略について (2) 主要事業の進捗状況について ・地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金 (地方創生先行型) 事業の効果検証について
配 付 資 料	資料 1 日進市人口ビジョン・総合戦略 (本文、概要) 資料 2 日進市総合戦略推進委員会設置条例 資料 3 日進市総合戦略推進委員会設置条例施行規則 資料 4 日進市人口ビジョン・総合戦略 主要事業進捗状況等 資料 5 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金 (地方創生先行型) 事業 ①つどいの場形成事業 ②ボランティア輸送等支援事業 ③農産物販売促進事業 ④地元商工業応援事業

	1 開会
	2 委員委嘱 (市長から委嘱書を手交)
	3 あいさつ

	4 委員長選任、委員長職務代理指名
	(委員の互選により鶴飼委員を委員長に選任、委員長が土田委員を委員長職務代理に指名)
	5 議題 (1) 日進市人口ビジョン及び総合戦略について
委員長	議題(1)について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料1、2、3に基づき説明)
委員長	ただいまの説明について、ご意見等はございますか。
委員	今回は、KPIという指標が非常に大事なのかなと思います。一部のKPIについては資料に記載がありますが、すべてのKPIの一覧のようなものをご用意いただくことはできますでしょうか。
事務局	用意させていただきます。
委員	私は、人口ビジョンの部分が非常に大事だと思いました。東京圏などへの転出超過に対し、今回は小・中学校に対する愛着心について調査を行っていますから、この部分について検証することが大事になると思います。20代で就職等の理由で一時的に出て行った子どもたちが、50代、60代となった時に戻ってくるという仕組みを作るようなことを目標とすることも重要ではないかと感じています。
委員長	この委員会の使命のひとつとして、進捗をしっかりと把握していくということが挙げられます。今委員がおっしゃった部分について、みなさんが重要だと感じるのであれば、評価軸のようなものを作ったり、あるいはアンケートをとる必要があるかもしれません。
事務局	少なくとも今はそういったことに関するデータは持っておりませんし、過去にアンケートも取っておりませんが、今後長いスパンの施策を考えるときには必要になるかと思います。
委員長	愛着度が高ければ故郷に戻るかというとは必ずしもそうではないと思いますので、大事な数字だとは思いますが、それだけで物事を判断できる性格のものでもないと思います。評価はもう少し先に行われることになるかと思うので、今後事務局でご検討いただくということでお願いします。
委員長	議題(2)について、事務局及び担当課から説明をお願いします。
事務局	(資料4に基づき説明)
地域福祉課 産業振興課	(資料5に基づき説明)
委員長	ただいまの説明について、ご意見等はございますか。
委員	つどいの場形成事業についてですが、資料4を見ると平成27年度決算額が約398万円となっているのに対して、資料5では約480万円となっていますがどうなるのでしょうか。

地域福祉課	資料4については、P7のつどいの場形成事業とP8のつどいの場づくり事業の決算額を足していただくと、資料5の数値と一致します。
委員長	数字の確認ですが、つどいの場形成事業の中で、目標値25箇所、実績値47箇所ということで大きな効果を出したと思いますが、この47箇所は継続的に運営されている場が47箇所あるという理解でよろしいでしょうか。
地域福祉課	多くはぷらっとホームと呼ばれる場になりまして、週に3日開催しています。あるいは、地域の方が自主運営しているホットカフェというものがあり、月に2回程度開催しておりますが、いずれも継続的に行っています。
委員長	ボランティア輸送は福祉輸送にかからない方が利用するというので、おそらく対象者が広く、なおかつやり方も多様だということで制度設計にご苦労されていることかと思いますが、制度設計の例となるようなものはなにか調べられていますでしょうか。
地域福祉課	<p>関東の方では、地域通貨を活用したボランティア輸送というものを行っている自治体もありますが、地域通貨という大きな制度設計が必要となってきますので、非常に難しい話ではあります。あとは岐阜県の中津川市で高齢者向けのファミリーサポート事業をしまして、たとえば病院や買い物などの付き添いをするといった援助活動に対して費用負担をするというものですが、そういった取組を参考にしています。</p> <p>対象者はご指摘のとおり幅広く、障害者の手帳を取得するには至らない方や、要介護・要支援認定に至らないけれども移動がしづらい方、あるいは運転免許証を返納されている方を対象にしていきたいと考えています。</p>
委員長	一宮市でもやり方は様々ですが、ボランティア輸送の団体が多くあります。一宮市の場合は、市民活動支援制度というのがありまして、ボランティア団体がそこに事業計画を提出します。一方で、市民税の1%を18歳以上の人口で割って、一人当たり約630円として、ある時期に毎年投票を行っています。たとえばボランティア団体がガソリン代として100万円ほしいということであれば、それを投票にかけます。市民は一人3団体まで投票ができ、1団体あたり約200円として投票をします。投票されたボランティア団体は獲得した金額を活動費の補助にしているということだそうです。これは、もっと大きな制度設計が必要なので、すぐには難しいかもしれませんが、一つ一つの団体を見ると、バウチャー制のようなものをとっているボランティア団体があったりと、制度設計という点では参考にすることは難しいかもしれませんが、個々の事業者が工夫している事例を探してみると、色々と参考になるものが出てくるかもしれません。
委員	今対象者は大体どれぐらいいて、2団体でどのように事業をすすめていこうとしているのでしょうか。
地域福祉課	福祉有償運送の対象者で言いますと、身体障害者手帳を取得している方は日進市内で約2,800人、要支援・要介護認定を受けている方は約2,500人い

	<p>ます。ニーズとしては大体それぐらいですが、ボランティア輸送については制度設計次第でもあるため、対象者が広がることは考えられます。</p>
委員	<p>地方創生の先行型というのは単年度の事業としているので、平成 28 年度の予算に計上することは検討しなかったということでしょうか。</p>
地域福祉課	<p>つどいの場については、資料 4 の P8 にもあるように 30 万円と規模は縮小しておりますが、社会福祉協議会でも同額の 30 万円を出して合計 60 万円で人材養成講座を行うということで予算措置はしています。</p> <p>ボランティア輸送については、平成 27 年度の単年度予算ですが、事業としては継続していくものと考えています。</p>
委員	<p>ボランティア輸送については、車両などかなり資金が必要になると思いますし、継続することが難しいと思いますがいかがでしょうか。</p>
地域福祉課	<p>継続性という点で言えば、福祉有償運送については、利用料を利用者から頂いて実施するものでございますので、ある程度の継続性は担保できると考えています。ボランティア輸送については、利用者負担は燃料費等の必要最低限度となりますので、地域通貨の導入など、いかに継続性を担保できる制度設計とするかという点について現在検討中です。</p>
委員	<p>今の話、ざっと対象者が 5,000 人程いるということですが、車は 1 台か 2 台しかないとのことでした。対象者のニーズはどのように捉えられているのでしょうか。5,000 人の中で利用したいという方は多くいるのか、あるいはそれほどニーズがないのか教えてください。</p>
地域福祉課	<p>ニーズの把握については、障害者の方や要介護認定の方を対象にアンケートを行っています。「新しい移送手段ができた場合に利用しますか？」という問いのなかで 3 割程度は利用したいという回答でした。台数については、補助は各 1 台ずつとなっておりますが、各グループは他の車も持っていますので、他の車も活用して対応をする予定です。</p>
委員	<p>たとえば住んでいる場所によっては、どこの駅に行くにも誰かが送る必要があるという場合もあります。あるいは要介護等には至らなくても将来的に自分で動けないという方が物凄く増えると思いますが、そういう方にはとりあえずくるりんバスを利用していただくよう促すのでしょうか。</p>
地域福祉課	<p>まずは、輸送手段の第一としては公共交通を利用してもらうということがありますが、今回の事業はそういう公共交通を使いづらい方が増えるということを見越しての実施となります。将来的には、要介護等に至らない場合でも、ボランティア輸送という仕組みが使えるよう検討して、移動手段として確保できるようにしたいとは考えています。</p>
委員	<p>産業振興課にお尋ねします。資料外の話ですが、昨年プレミアム商品券を商工会で担当しまして、今年も規模こそ縮小しましたが、同様の事業を行いました。こういった事業は継続して行うことが大切だと思いますので、今後とも是非よろしくお願いします。</p>

産業振興課	<p>昨年と比較すると額が全く違い、規模につきましても昨年は大規模店を対象としましたが、今年は中小店のみということでしたが、倍率としては昨年以上に高い申込みがされたということで市民の高い関心が伺えました。この場で結論付けることはできませんが、できれば継続していきたいとは考えています。</p>
委員長	<p>現状、どちらかという新しいことに挑戦していくというスタイルの総合戦略と、プレミアム商品券のような定常的に行う事業・制度とが二重に存在している状態だと思いますので、両方に目を配っていかねばいけないと思います。</p>
委員	<p>少し大きな話になりますが、施策、取組の相乗効果を図っていくという目線もあるのかなと思います。具体的に言うと、農産物の販促事業のところ、資料5-③の(3)でぶどうの話がありますが、資料4の3-1のにしん版DMO構想や3-2のスマートICと関連付けて、訪れた方がぶどう狩りなどの体験をするなど、関連性という点について考える余地があるのかなと思います。</p>
産業振興課	<p>にしん版DMO構想については、今後どうしていくか検討しているところですが、日進に人を呼び込むということで、農産物収穫ツアーなどの体験ツアーをしてみたりとか、にしんの魅力をいかに発信していくかということが重要になります。いずれにしても農家だけに任せておくのではなくて、良いブランドがあればそれも含めて、観光協会のような組織を設立して日進の魅力をPRしていこうと考えています。</p>
委員	<p>地方創生先行型事業についてですが、KPIという形で目標値と実績値が載っています。ボランティア輸送等支援事業でいうと、目標値が2団体とありますが、これは何を根拠に立てられているのでしょうか。</p>
委員長	<p>KPIという形でPDCAサイクルを回すのであれば、そもそもの数字の根拠というのが適切かどうか、あるいは有効なのかどうかという議論が必要だと思います。今回は過去に決めた値を見ておりますが、今後、目標値の根拠を議論しながら立てていく必要があるかだと思いますので、次回以降検討する際の参考とするために目標値の立て方というのを教えていただけますでしょうか。</p>
地域福祉課	<p>当然2団体で十分だとは考えていませんが、日進市の中でもなかなか浸透していませんので、まずは2団体ということで目標を立てました。</p>
委員長	<p>産業振興課はいかがでしょう。</p>
産業振興課	<p>農産物販売促進事業についてですが、現在日進市内に認定農業者が4事業者ありますので、そのうちの3事業者をとということで目標値を立てまして、結果的には、4事業者から申込みをいただくことができました。</p> <p>また、地元商工業応援事業については、日本政策金融公庫に実績を確認したところ、大体年間10人ぐらいということでしたので、その半分の5人でしたが、これも結果的に10人から申込みをいただくことになりました。</p>

委 員 長	地元商工業に新たに就業した人とありますが、就職とは違うのでしょうか。
産 業 振 興 課	就業というのは、こちらで雇用された方、それからそこで創業された事業者を指しています。
委 員 長	実績値が 10 人ですので、積極的にいくのであれば、次年度は目標値を 20 人とするというのでしょうか。
産 業 振 興 課	この事業は単年度事業になりますので、形を変えて創業支援していくことを検討していきたいと思います。
委 員 長	様々なご意見をいただきありがとうございます。この総合戦略を展開していくにあたり、単年度事業も含めて、どうやって全体目標に繋いでいくかということがより重要だと思いますので、相乗効果を図れるような検討も合わせてご提案いただくと良いと思います。それでは、進行を事務局へお返しします。
事 務 局	委員の皆さま、それぞれのご専門やご経験から大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。この総合戦略は 5 年の計画のうちの 1 年が終わったばかりですが、本日いただきましたご意見を参考に今後の事業展開を図っていききたいと思います。 次回は秋頃となりますが、具体的な日程が決まり次第ご連絡させていただきますのでよろしく願いいたします。
	閉会